

AAINews

APPROPRIATE AGRICULTURE INTERNATIONAL CO., LTD
国際耕種株式会社
〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3 アーベイン平本 403
TEL/FAX: 042-725-6250 Email: aai@sk9.so-net.ne.jp

メコンのほとりで：私のベトナム（それにしても、ベトナム料理のうまかったこと！）

ベトナムに1ヶ月間出張する機会がありました。滞在期間も短かったし、ほとんどホーチミン市にいたのでベトナム全体の話というより、ベトナムで考えたことです。まず、一番最初にホーチミンで驚いたことは、バイクが多い、とにかく多いこと！ 歩いている人はあまり見かけない、たいていはバイクか自転車（もちろん金持ちは自動車）に乗っている。道を歩いていると必ずバイク・タクシーが「乗らないか」と声をかけてくる。新品のバイクの値段は日本円にして20万円もするそうで、なぜ月給が2,000～20,000円ぐらいしかない（能力・職種によって給料はかなり異なる）のに、多くの人々がバイクを買えるのか、というのは不思議ですが……ただ、みんなより良い就職（給料）をめざして努力しているようで、仕事が終わった後に（あるいは勤務時間中に！）語学学校やコンピュータの学校に通っている。

このバイクの群れを見ていると、ベトナムのエネルギーを感じる。でも、みんなどこへ向かっているのだろうか？ どこまで行くのだろうか？ ベトナムではみんなが一息懸命生きているように見える。それは今の日本人がすでに忘れてしまったものかもしれない。しかし、その先にあるものは…… 地球温暖化会議でも議論されていたように、我々（日本及び他の先進国）はここまで来てしまった。だからといって、まだそこまで到達していない途上国の人々に対して、経済発展は地球環境のためによくないからやめろ、とは言えない。それは到達してしまったからこそ言えることで、到達していない人々にはとっては、やはり未知の領域であり、憧れの対象でもある。

ベトナムでは、「日本の過去の公害経験に学ぶ」という内容の本がベトナム語で出版されていた。途上国の中にもこのように、先進国に学びつつ環境保全と経済発展の両方をバランスよく目指そう、という意識はある。そういう動きに対して、到達してしまった日本だからこそ、今こそ過去の反省の上に立って他の国の人々のモデルになるようなもの、地球環境保全に一層配慮し、かつ多くの人々が実現可能な現実的な選択肢を日本が示せるはずだし、示すべき時である。自然を切りきざみ、農業を切り捨て、ひたすら工業化や経済的発展をしてきた日本であるが、これからは農家以外の人々も自然や農業をより身近なものに取り戻していく「農的生活」が一つの重要なキーワードになるように思う。

しかし、日本人はここまで来てしまって、ライフスタイルを変えられるのだろうか？ ホテルで時々ある、部屋に入った時にキーを所定の場所に入れると電源が入る、部屋を出るときにキーを取ると電源が切れてしまうシステム、部屋が空の時にエアコンや電灯をつけっぱなしにしようと思ってもできないような（人間のモラルや倫理観だけに頼らない）システムづくりも必要であろう。（ホーチミンにて・湖東）



バイク、バイク、バイク、……



メコンデルタの「足」はボート